

例会報告：2015年12月22日（晴れ） 第1916回 通常例会

◆ 会員誕生日

大野 英明さん（12月22日）

◆ ニコニコ箱

櫻井 康二 委員長

	ニコニコ箱	累計	目標
12月22日分	10,000	468,635	1,300,000

千村 憲一様（足柄RC）…お世話になります。

松浦 なおみ様（小田原城北RAC）…先日のローターアクトの忘年会にたくさんのご登録をいただきありがとうございます。本日はよろしくお願ひ致します。

鈴木 友徳さん…今年半年ありがとうございました。みかんの収穫がやっと終わりました。

清 康夫さん…執行部の方々、半年間ご苦労様でした。あと半年頑張ってください。会長の卓話、毎回楽しみにしております。

露木 清勝さん…平井 丈夫さん、いつも大変お世話になっております。また本日はお忙しい所、大変ありがとうございます。よろしくお願ひ致します。

金山 慶昭さん…平井さん本日は宜しくお願ひいたします。

櫻井 康二さん…今年も1年ありがとうございました。来年も宜しくお願ひします。皆様、良いお年をお迎えください。

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■

-2016年1月-

- ▶1日(金) 湯河原 休会
- ▶1日(金) 足柄 休会
- ▶4日(月) 小田原
- ▶5日(火) 箱根 休会
- ▶6日(水) 小田原北 新年会
- ▶7日(木) 小田原中
- ▶8日(金) 湯河原 新年会
- ▶8日(金) 足柄 新年夜間例会 18:30
- ▶11日(月) 小田原 休日休会
- ▶12日(火) 箱根 箱根ホテル 12:30
「初詣（箱根神社）
卓話：職業奉仕委員会委員長/渡辺浩司会員」
- ▶13日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話：クラブ協議会 中間決算報告」
- ▶14日(木) 小田原中
- ▶15日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶15日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30
- ▶21日(木) 第9グループ新春IM・合同例会
湯本富士屋ホテル 15:00
- ▶25日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「卓話：クラブフォーラム（職業奉仕委員会）」
- ▶26日(火) 箱根 夜間例会：ホテル南風荘 18:00
「新年親睦会」
- ▶27日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「職業奉仕月間」
- ▶28日(木) 小田原中
- ▶29日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「クラブ場議会：中間決算報告」
- ▶15日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30

【小田原城北ロータリー・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会場：小田原卸センター内会議室
創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例会：毎週火曜日 12:30～13:30
クラブ会報委員会
監修：柳井 涉
編集長：小林 和彦
コピーライター：大川 誠
デザイン：小林 和彦
フィールド：大川 久弥・杉本 博愛

会員数：46名



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2015-2016
WEEKLY BULLETIN



世界へのプレゼントになろう

【R.I. 会長】
K. R. ラビンドラン
【R.I. 2780地区ガバナー】
田中 賢三
【第9グループガバナー補佐】
石崎 孝



【会長】木村 頼弘
【副会長】久保田 知子
【幹事】柳井 涉
【副幹事】須藤 公司
【会場監督】西 寛

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

本日の例会：新年例会（第1917回）

会場：ホテル河鹿荘
日時：2016年01月05日 17:30～20:00
司会：須藤 公司 副幹事

17:30	開会点鐘：木村 頼弘 会長 国歌斉唱 ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱 閉会点鐘：木村 頼弘 会長
18:00～ 20:00	懇親会

■ 寄稿

「例会は人生の道場である」

ロータリーは倫理運動でありますから、ロータリークラブはロータリアンに奉仕の心を授けてくれる所、ロータリアンの心を育ててくれるところでもあります。クラブの例会で自己研鑽、切磋琢磨をします。その結果、ロータリアンの人格が向上し、そのエネルギーが社会全般の事に放流されるというのがロータリーの基本的な考え方です。そしてロータリークラブは社交クラブでありますから、皆で仲良くクラブライフを楽しみながら奉仕の心を磨く、すなわちお互いを高め合う事により人は育つのであります。この皆で学び合う楽しさ、お互いを高め合う楽しさ、新世代の若者達に知ってもらいながら、ロータリーも常に向上心を持ち、奉仕の心を常に感じながら例会に出席をし、米山梅吉翁が言われた “例会は人生の道場である” 実践したいものである。

ただ楽しさといってもいろいろあります。酒、歌、旅行等々、これは感性的な楽しみ、感性的な親睦にあります。ロータリーで言う楽しさ、親睦というのはこれとは違います。己の足らざる所を他のロータリアンから学び合う楽しさ、親睦であり、これはクラブの中で集団で磨くのであります。芋の桶洗い同様に、ロータリアン同士がクラブの中で磨かれてゆくのです。そこで、ロータリーの心を一言で言えば何かと言うと、それはお互いを高め合う事。言い換えればすべての人の幸せを祈り合うという事でもあります。心を磨くのは何の為か、それは万人の幸せの為であります。ロータリー運動は倫理運動でありますから、ロータリアン一人ひとりの心の中に宿るもの、それが大事なのであります。

例会報告：2015年12月22日（晴れ） 第1916回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2015年12月22日 17：30～20：00

◆ 会長挨拶

「眷属神」について



木村 頼弘 会長

余すところ、後10日程で今年も終わります。そして、新年を迎える訳ですが、年が明ければ、皆さん神社に初詣に出かけ、いろいろと願ひ事をすると思います。当クラブの会員の中にも、商売をされている方が沢山いらっしゃると思います。会社の中にも、神棚が祭ってあるかと思えます。やはり商売をやっている以上、商売繁盛を祈願する事が多いのではないのでしょうか。皆さんが初詣に参拝する神社には、その神様を守るための、そしてその神様のお使いをする家来がいます。その家来を「眷属神」と言います。今日はその「眷属神」についてお話しします。一般的には人間の姿をしておらず、キツネや蛇、猿やウサギなどの動物、また龍や天狗といった想像上の生き物の姿をして、神様と人間との間を取り持つ存在です。

（陰陽師が操る「式神」も眷属神と同じ存在です）

例えを言うならば、皆さんが良く知っている稲荷神社があります。商売繁盛の神様として有名です。稲荷神社の神様は稲荷神と言う神様です。その稲荷神の「眷属神」はキツネです。そもそも稲荷神は五穀豊穡を願う農業の神様です。

普通の神社は本殿の両脇に狛犬がありますが、稲荷神社はキツネがおります。境内に悪いものが入ってこない様に見張っています。キツネは穀物を食い荒らすネズミを捕食し、穀物を守るという意味で、キツネが稲荷神の使い、すなわち（眷属）という位置付けになり、祭られています。

「眷属神」は人間に対して最も良く働いてくれると言われるております。しかし霊界における階級まだ身分は低く、修行の身であり浄化されていない低級霊といわれています。そのため人と付き合ひ、人の願ひを叶える事によって成果を上げ、身分を高くしようとされています。

キツネは気性は荒いが非常に頭が良く、人のために良く働き約束を果たすとされています。そして、当然のごとく働いた分、見返りを要求してきます。例えば今年1年で1,000万円儲けさせて下さい。もし願ひが叶ったらお礼に100万円差し上げます。と約束したら、必ず約束は守って下さい。

約束を破れば、当然仕返しがやってきます。それが世間でいわれている、祟りです。意味不明の病気になったり、物事が全て裏目に出たり、低級霊に振り回される結果になります。

神社に行って商売繁盛など色々とお願ひをするという事は、自分と神様が契約を結ぶという事です。契約とは、双方合意の上で結ばれた約束です。約束が果たされたら、当然見返りを払うのは、この世もあの世も同じです。ですから安易な気持ちで、眷属神を頼ってはいけません。この「眷属神」人の想念が作り上げたエネルギー体であるという考えもあります。

信じる信じないは別として、見えない世界とお付き合いする時は、きちんとした知識をもって、必ず約束を守るという事、これがとても大切なことです。

◆ 幹事報告



柳井 渉 幹事

- 1)次週例会は1月5日河鹿荘にて新年例会です。
- 2)理事会が例会前に開催されます。理事に方はお忘れなようお願いします。
- 3)ガバナー事務所から年末年始休業のお知らせが来ています。12月26日～1月4日まで休業です。緊急連絡は成田地区幹事までお願い致します。
- 4)当クラブ事務局は12月29日から4日まで休業します。
- 5)来年1月21日に開催されるIMにおいて箱根RC主催でインドポリオナウと箱根応援キャンペーンの募金を行います。それに伴い、会員の事業所にも募金箱の設置してもらいます。
- 6)杉本会員、太田会員、田代会員から退会届が出され、持ち回り理事会にて承認されました。

◆ 出席報告

阿久津 馨 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
12月22日	46(42)	33	1	80.95%
12月15日	46(43)	35	0	81.4%
12月8日	46(41)	31	3	80.49%

【欠席者】9名

小川 和夫、太田 忠、小嶋 章司、大野 英明、杉本 博愛、石坂 弘之、内山 修一、大川 久弥、小林 和彦

【今回MU】1名

大川 久弥 (12/19 小田原城北RAC)

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

◆ 委員会報告

IM実行委員会 露木委員長

IMの合同例会ホストクラブとしてのお手伝いをお願いがあります。1/21はホストとして皆さんをお迎えすることになります。集合時間が13時、湯本富士屋ホテルです。当日は午前中からインドポリオナウの募金活動が始まります。そちらにも是非参加していただき、13時からは会場設営を担当しておりますのでお手伝いいただければ助かります。懇親会含め最後まで、よろしく申し上げます。

40周年記念事業実行委員会 杉崎委員長

地区のロータリー財団委員会からモンゴル国立盲学校点字器贈呈プロジェクトに補助金を25万円いただけることになりました。有効に使いたいと思っています。

親睦活動委員会 上田委員長

1/5に新年会を河鹿荘で行います。保留の方は是非ご参加ください。また先日のクリスマス例会では皆さまにお世話になり、ありがとうございました。

◆ 卓話

「小田原の海 なりわい」



NPO法人 小田原まちづくり応援団 理事長 平井 丈夫 様

現在、市から業務委託を受けて南町の小田原邸園交流館・清閑亭を管理運営しています。邸園巡り、なりわい巡りの2コースでまち歩き企画のガイド等もしております。数年前に当団体副理事長・平井太郎がこちらでお話しさせていただきました。その時は清閑亭を始めたばかりだったと思います。現在彼は弘前大学へ就職をして小田原にはおりませんが、今でも関わってくれています。来年1/23放映のNHK「プラタモリ」でも案内役を引き受けてくれました。

本日は『海なりわいの話』です。小田原の蒲鉾通りを元気にしたいという蒲鉾組合青年部を中心にして活性化委員会ができています。30代、40代の方々が中心でやっていますが、小田原の歴史が分かっている部分もありまして、今までの流れをまとめてみました。昨年JR東海が小田原紹介のビデオを作ってください、その中で漁業に関するビデオがあります。見ていらっしゃる方が少ないようなので、ご紹介したいと思います。（ビデオ上映）

最近、海関係であり良い話が続いていなくて気になっているのですが、しいの食品さんが工場を全て静岡へ移転するという記事が先日新聞に出ていました。先ほどのビデオに出ていらした籠常さんのお祖母さまも1週間ほど前に亡くなられたそうです。普段我々はよく蒲鉾通り界隈のまち歩きをさせていただくのですが、その時に籠常さんのお祖母さまはスターで、東京や横浜の方から特に好かれていたので残念です。『なりわい』という言葉は、生産から加工・販売まで一連のものを指します。ビデオに出てきた東海道五十三次の小田原宿、これは日本橋から京都三条まで描かれた分間絵図のもので、小田原は五十三の宿場の中で最も大きな町の1つと思って良いでしょう。本陣が4つ、脇本陣が4つ、大名が泊まれる宿が8軒もあったのは東海道で小田原だけです。本陣以外の旅籠も100軒くらいあった大宿場町でした。その理由は箱根越えです。箱根八里を越えるのにはどうしても小田原で宿泊をしなくてはなりません。朝早く松原神社で安全祈願をしてお昼ごろに関所を通過して箱根を越えて行き、夕方には三島へ下りて三島大社へお礼参りをするというパターンでした。東海道五十三次の番付表では東の横綱です。名物として初鰹、いろいろ、灯籠、梅といった名前が出ています。初鰹はあまり馴染みがないかもしれませんが、江戸時代、最初に初鰹を江戸へ運んだのは小田原の漁師だったそうです。今はお寺が並ぶ海岸の千度小路は、元々は船頭さんたちが住んでいて船頭小路と呼ばれたのが訛って変化したようです。浮世絵をよく見ると地引網や鰹の一本釣りをやっています。明治になりますと、小さく分かれていた小田原の魚市場は大きく3つにまとまりました。



山田小兵衛と山田又市、二見初右衛門という3つでしたが、関東大震災後に1つに統合されて現在に至っています。若い方々は千度小路に魚市場があったことをご存じないでしょう。昭和43年に早川漁港が完成して市場はそちらへ移転しました。早川港が出来る前の一番の特色は、海岸から船を出して漁が終わると海岸へ船を上げていたことです。西湘バイパスができる前の状況です。明治から昭和にかけてブリがたくさん獲れた時代がありました。昭和26年から30年にかけて100万匹を超えるブリが獲れたそうです。現在はほとんど見かけなくなってしまいました。大量に水揚げされた頃は漁師がお揃いの法被を作って車を1輛貸し切り、大名三味でお伊勢参りをしたそうです。その時の法被はなりわい交流館に飾られています。なりわい交流館はかつて漁網店だった建物ですので、機会があったらご覧になってみてください。その他、小田原の海岸活用として大正時代は保養所がたくさんできました。海水浴が奨励されていた時代です。都会は白米を食べるようになって脚気の患者が増え、その療養で訪れた人が多かったようです。早川海岸の漁港は内陸部を掘って作ってあります。小田原には港に適した地形がなく、何とか大きな船が停泊できる港を作りたいとの声があり、戦後すぐに工事が始まりました。現在も工事は続いていて西側に広がっていています。

現在蒲鉾屋さんは13社、干物屋さんが10社ほど組合に参加しています。西湘バイパスが海岸にできてから海の姿は一変してしまいました。非常に浜が狭くて、生活の場と分断されています。昔のように気軽に海へ出ることはできません。それを何とか見直せないか、海との関係を見直すことによって小田原の活性化に繋がらぬか、というのが今考えていることです。2年前から「かまぼこフッジョイ」というイベントをやったり、ギネスに挑戦した長い蒲鉾を作ったりしています。なんとかが蒲鉾通りまで観光客の方を引っ張り込みたい、回遊して欲しいと色々考えています。小田原市では観光ビジョンを作っていて、観光客700万人へ！と掲げました。今、年間450万人の観光客がいらして、そのうちの250万人くらいが小田原城へ登っているそうです。これを倍増し、将来は1,000万人の観光地を目指したいと無謀な計画を立てています。そのくらいの勢いでやらないと小田原は観光地として中途半端な感じで終わってしまうのではないのでしょうか。大きなビジョンを掲げて、たくさんの方に来ていただき、たくさんお金を使っていただきたいと考えています。まちづくり応援団ではものづくりの現場を応援しています。都会の方々はものづくりの現場を喜びますし、それが減っていくのは街が衰退していくことに繋がります。ですから今一度ものづくりの現場を見直して小田原を元気にしていきたいと願っています。最後に水産試験場が8mmビデオで撮影した昭和30年代の映像を見ていただきたいと思います。音声はありませんが是非ご覧ください。これからも小田原の海を活かしたまちづくりを目指していきますので、よろしく願いいたします。

